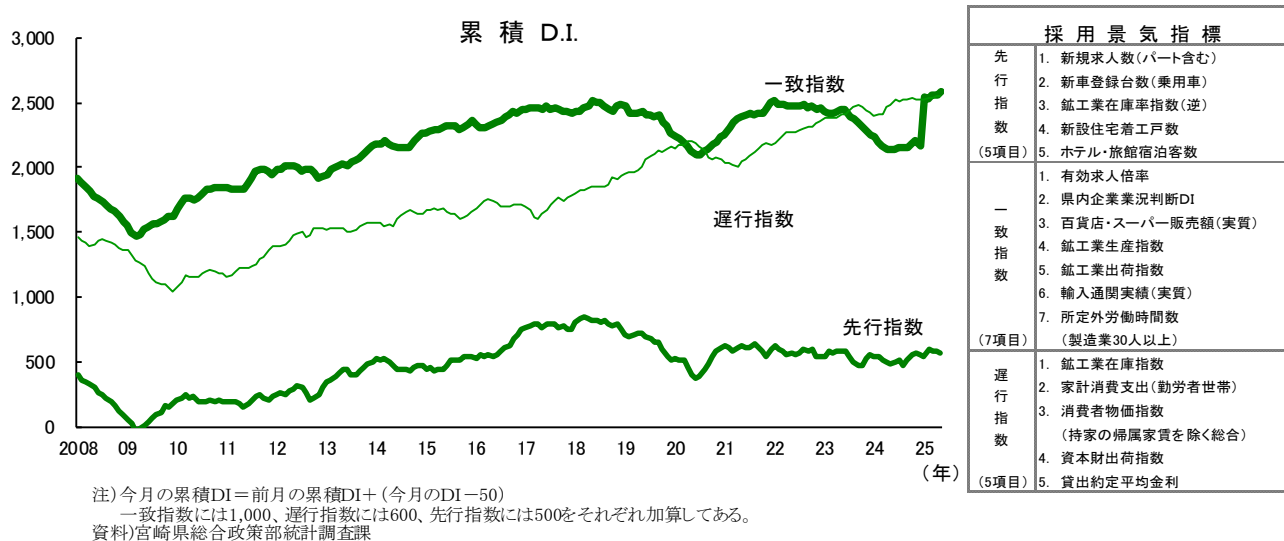


1. 景気動向指数

2025 年 5 月の景気動向一致指数は、県内企業業況判断 DI、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関実績（実質）、所定外労働時間数（製造業 30 人以上）の 5 項目がプラスとなり、全体で 71.4%と 3 カ月連続で 50.0%を上回った（7 項目のうちプラス 5）。

先行指数は、新規求人数（パートを含む）、新車登録台数（乗用車）、新設住宅着工戸数の 3 項目がマイナスとなり、全体では 40.0%と 3 カ月連続で 50.0%を下回った（5 項目のうちマイナス 3）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、貸出約定平均金利の 3 項目がプラスとなり、全体では 60.0%と 5 カ月連続で 50.0%を上回った（5 項目のうちプラス 3）。



景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を 3 カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したもの。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の 3 つがある。一致指数が数カ月連続して 50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

景気動向指数 = (プラス項目数 + 横ばい項目数 × 0.5) ÷ (プラス項目数 + 横ばい項目数 + マイナス項目数) × 100(%)

2. 鉱工業生産

5 月の鉱工業生産指数は、78.4 で前年同月比 5.4%増と 3 カ月連続で前年を上回った。

主要業種別にみると、繊維（同 4.3%減）は前年を下回ったが、化学（同 14.1%増）、電子部品・デバイス（同 11.2%増）食料品（同 2.6%増）が前年を上回った。

3. 建設関連

① 公共工事

7 月の公共工事請負金額は、164 億 78 百万円で前年同月比 5.3%増と 2 カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同 38.9%減、県が同 3.0%減、市町村が同 46.9%増、その他（独立行政法人等）が同 8.5%減となった。

② 着工建築物

6 月の着工建築物は、棟数は 328 棟で前年同月比 11.1%減、床面積は 4 万 3,621 ㎡で同 31.9%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同 10.5%減、床面積が同 24.0%減となり、非居住用は棟数が同 14.1%減、床面積が同 45.9%減となった。

③ 住宅着工

6月の新設住宅着工戸数は、分譲は前年を上回ったものの、持家、貸家は前年を下回った。県内合計は360戸で前年同月比32.8%減と3カ月連続で前年を下回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

6月の百貨店・スーパー販売額は、60億1,000万円で前年同月比3.1%増と8カ月連続で前年を上回った。

商品別では、衣料品は8億7,100万円で同9.0%減、飲食料品は33億3,400万円で同6.4%増、その他計は18億500万円で同3.7%増となった。

② 乗用車新車販売動向

5月の乗用車新車登録台数は、1,301台で前年同月比8.0%減と2カ月連続で前年を下回った。

車種別にみると、普通車は828台で同17.9%減、小型車は473台で同16.8%増となった。

5. 消費者物価指数

6月の宮崎市の消費者物価指数は、112.5で前年同月比3.7%増だった。

6. 企業倒産

7月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は3件（前年同月2件）で、2カ月ぶりに前年を上回った。負債総額は13億5,600万円（同1億1,600万円）で2カ月ぶりに前年を上回った。

7. 雇用情勢

6月の有効求人倍率は、前月から0.02ポイント減の1.25倍となった。

新規求人数は8,699人で前年同月比1.7%減となった。

雇用保険受給者数は、4,788人で同4.2%増となった。

今月のトピックス〉～宮崎市の消費者物価指数

宮崎市の2024年平均の消費者物価指数は、20年を100とした総合指数で前年比3.4%増の108.9となり、3年連続で上昇した。

10大費目別の寄与度を大きい順にみると、上昇に寄与した費目は、「食料」(1.48)、「住居」(0.45)、「教養娯楽」(0.38)、「光熱・水道」(0.33)、「交通・通信」(0.29)、「家具・家事用品」(0.16)、「被服及び履物」(0.11)、「保健医療」(0.10)、「諸雑費」(0.10)、「教育」(0.02)となった。下落に寄与した費目はなかった。

消費者物価指数の総合指数と前年比の推移(2020年=100)

